

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評） 理学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価 単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
数学プログラム	5	5	4	4	4	5	5	4	4	5	4	5
物理学プログラム	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
化学プログラム	5	4	4	4	4	5	4	4	4	5	4	5
生物学プログラム	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4
地球惑星システム 学プログラム	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	4	5

自己点検・評価 単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
数学プログラム	5	5	5	5	4	5	4	4	5	5	5	5
物理学プログラム	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4
化学プログラム	5	5	4	4	4	5	4	4	4	4	4	4
生物学プログラム	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	4	4
地球惑星システム 学プログラム	5	5	5	5	5	5	4	4	5	4	5	4

自己点検・評価 単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
数学プログラム	4	5	4	5	5	5
物理学プログラム	4	4	4	4	—	—
化学プログラム	4	4	4	4	—	—
生物学プログラム	4	4	4	4	4	4
地球惑星システム 学プログラム	4	5	5	4	—	—

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

学士課程教育における主専攻プログラムの自己点検・評価は、教育研究上の基本組織（領域1）、内部質保証（領域2）、情報の公表（領域3）、施設及び設備並びに学生支援（領域4）、学生の受入（領域5）、教育課程と学習成果（領域6）、教育の国際性（領域7）、リカレント教育の推進（領域8）の基準と分析項目に照らし、評価根拠となるエビデンスに基づき実施された。すべて4以上の評価となっており、おおむね適合する。今後より評価項目に的確に沿った目標を達成することを目指して、一層の改善に努めていく必要がある。

領域1 教育研究活動等を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していることについては、随時教授会並びに教員会が開催され重要事項について審議が行われていることにより十分に適合していると判断される。

領域2 基準2-1 内部質保証のために必要な情報を体系的、継続的に収集・分析し、反映する取り組みを行っていることについては、理学部独自に広島大学理学部自己点検・評価実施報告書、教育研究成果報告書を毎年作成し、網羅的に情報を集めるだけでなく、HPにも公開することで質保証を担保している。

学生・卒業生を含む関係者から意見を体系的・継続的に収集・分析することを目的として、毎年各学科の各学年を対象として「学生とのミニ懇談会」を開催して学生の意見を聴取し、その後「学生と学部長との懇談会」により学生代表に対して学部執行部より、すべてについて回答を伝達している。さらに、数学科では、「講義を終えて」を学期ごとに発行し、教育状況について教員が互いにチェックできる体制を整えている。数学科では、卒業生に在学時の感想、数学科を志望する高校生に向けたメッセージ作成を依頼している。地球惑星システム学科では、ホームカミングデーに合わせ様々な業界の卒業生を招きシンポジウムを開催している。

基準2-2 教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていることについては、全教員を集めた教員連絡会を年3回以上実施し、情報を共有することで教員の資質向上に努めている。チューター間や教員会で、学生の成績について情報共有が適切に行われている。また、2022年度よりハラスメント防止研修会を、全教員対象として行うなど、重要なものについては別途情報を共有できるようにしている。

領域3 教育研究活動に関する情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていることについては、教育研究成果報告書、自己点検・評価報告書、プログラム詳述書などに記載し、HP上で公表している。これに加えて、理学部の各学科を紹介した動画を作成公開し、効果的に利用している。

領域4 基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていることについては、数学・化学・生物・地球惑星システムの各学科では、自習に使用できるスペースが独自に用意されており、例えば、数学科では全国有数の規模

を持つ数学図書室をもち、和書には自由にアクセス可で、さらに洋書も利用できる体制をつくっている。生物科学科では学生実習室に WiFi を新たに設置し、オンライン学習をスムーズに行えるようにしている。地球惑星システム学科は、昨年度より建物改修によりラウンジを新たに設置し、自習室や討議室として活用しており、教育効果が現れてはじめています。物理学科でも研究室配属前は学内共有施設などを案内して、学生のニーズに答えている。E003 理学部自習室には、ロッカーを整備し自習環境を整えている。また、講義棟各所に教室の空き時間を掲示し、コロナ下での online 授業や自習のためのスペースとして効率的に活用できる対策を講じた。これに加えて、一昨年度より以下の対応をおこなっている。1)E102 講義室（マイクロホール）前のスペースを整備して、机と椅子に加えて、パソコン充電設備を備えたカウンターを設置し、学生が自習や休憩できる空間とした。2)講義棟入り口を自動ドア化し、非接触で入構できるようにした。

基準 4-2 学生に対して、生活や進路、経済面での援助等に関する相談・助言・支援が行われていることについては、入学時ガイダンスで履修指導や、半年毎に各チューターが学生と面談して成績表を手交するなどして指導を行い、4 年次は指導教員が修学上の必要な支援や学生生活、進路、奨学金取得などのサポートを、責任をもって行っている。また、障害のある学生が、支障なく授業に参加できるようにするだけでなく、実習、研究活動も快適に行えるよう、教室、トイレ、実験室の整備を行っている。

領域 5 基準 5-1 学生の受入が適切に実施されていることについては、入学募集要項にアドミッション・ポリシーを記載して受け入れ方針を示し、「入学者成績追跡調査委員会」で作成されていた資料を参考に、入学者選抜が適正かどうか評価している。特に光り輝き入試（A0 入試）で入学した学生の成績状況から入試選抜方法の改善を検討し、生物科学科に加えて物理学科と化学科でも令和 6 年度入試より II 型での実施を公表した。これに加えて、光り輝き入試合格者に入学前課題を課し、入学までの長い期間にも成長するよう促している。また、光り輝き入試において、科学オリンピック利用型を設け、科学オリンピックの予選や本選で優秀な成績を収めた学生を募集している。

基準 5-2 入学者数が入学定員に対して適正な数となっていることについては、すべてのプログラムで適正な入学者の範囲に入っている。

領域 6 基準 6-1 教育課程の編成及び授業科目の内容が学位授与方針及び教育課程方針に則して体系的であり相応しい水準であることについては、各学科で授業科目の体系性を、樹形図を用いてわかりやすく学生に解説している。

基準 6-2 学位授与方針及び教育課程方針に則して適切な授業形態・学習指導法が採用されていることについては、シラバスを使って、授業形態、学習指導法を周知させている。また、卒業論文の指導体制も充実しており、卒業論文発表会を開催して成果の発表と評価を行っている。

基準 6-3 学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていることについて

ては、チューターによる成績不振者の履修指導や学習相談を行っている。社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培うために、インターンシップを卒業単位として認めている。また、7割近くが進学しており、将来社会的・職業的自立を図るために必要な能力を大学院でさらに積み上げ、高度な能力を身に着けることを目指している。障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する支援体制についても、学生支援室に留学生担当の職員を配置し、様々な問題解決に当たっている。

基準6-4 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていることについては、広島大学が導入している到達目標型教育プログラムを実施しており、もみじにより、評価基準を明示している。学士課程教育卒業時アンケート集計データにおける学生の達成度についての評価、大学院進学状況、就職状況などから、教育効果が上がっていると考えられる。

基準6-5 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業判定が実施されていることについては、卒業論文の指導体制も充実しており、卒業論文発表会を開催して成果の発表と評価を行っている。また取得単位の確認を踏まえて、卒業認定基準との照合を厳格に行っている。

基準6-6 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていることについては、各学科において6割から8割もの学生が大学院へ進学しており、高度な知識と技術を持つ人材となることを目指している。また、卒業生が就職または進学した割合も95%となっている。就職先へのアンケート実施方法について検討し、グローバルキャリアデザインセンターが実施し、今後も継続する予定である。

領域7 基準7-1 キャンパスの国際化及びグローバル人材育成の取組が、体系的に行われていることについては、外国人留学生選抜をB日程(2月実施)・C日程(3月実施)において実施し、共通テストを受験できない留学生に受験機会を提供するとともに、地球惑星システム学科では英語で完結できるプログラムを用意し入学後の受け入れ態勢も整えている。日韓学生交流による国費留学生の受け入れや、peaceプログラムによる短期留学生の受け入れ実績もある。理学部の入学時ガイダンスなどでSTARTプログラム/e-STARTプログラムについて紹介している。また、理学部独自の取組として、理学部附属未来創生科学人材育成センターが開設するHi-サイエンティスト養成プログラムにおいて、英語で科学を学び、英語で発表するコースを提供している。

領域8 基準8-1 リカレント教育を推進するための工夫、社会人向けプログラム、初等中等教育との連携や生涯学習の取組が体系的に行われていることについては、広く社会人を対象とした講座を開設している。理学部附属未来創生科学人材育成センターにおいては、一般・学生・教職員を対象としたノーベル賞解説講演を開催しており、理学部独自の取組として重要な役割を担っている。